

【学校教育目標】
地域や社会に積極的に関わり、
自立できる生徒の育成

【本年度の重点目標】
・不登校の未然防止と、基本的な生活習慣の定着
・学力と体力の向上
・人権尊重の行動化と自尊感情の高揚

分野	自己評価 (4:大変よい 3:よい 2:努力を要す 1:すぐに改善)	学校関係者評価	令和3年度に向けた改善策
学校経営	① 学校の教育目標(重点目標)を達成するために、日常の教育活動ができてきているか ＜結果＞ 学校教育目標を具現化する教職員の意識が高まり、生徒の集団の質が高まり、前向きに生活している。	3	落ち着いた学校生活を継続させていながら、心の教育の充実や学力向上を目指してほしい。コロナ禍の中、感染防止に努めながら子どもたちのために頑張ってもらいたい。 ・社会に対応した取組の創造と既存の取組の凡事徹底の継続と質の向上 ・教員の指導力向上のための取組(研修)
	② 校務分掌の担当として、役割が果たしているか ＜結果＞ 例年通りが通用しない1年だった。創意工夫することで、乗り越えることができた経験を活かしたい。	3	卒業生が理想のモデルとして機能し、在校生に来年度リーダーとして活躍してほしい。意欲が高まっていると聞き、来年度もぜひ取組を継続し、更に高めてほしい。 ・総合的な学習の見直し(キャリア教育の視点) ・ブロック活動を運動させた取組のさらなる活性化 ・これまでの取組の教員への伝承
	③ 学級担任及び副担任が協力して、意図的・計画的に学級経営ができてきているか ＜結果＞ 情報共有・組織的な対応はできたが、教員の指導力の差があり十分な支援・指導に至っていない。	3	各行事や入学式・卒業式が縮小となったのは残念である。しかし、制約がある中先生方と生徒が、知恵を出し合い取組んでいる姿を見ることができた。 ・学年、学級経営の計画的、意図的な推進 ・担任と副担任の役割分担の明確化 ・協働体制づくりのために教員間のコミュニケーションを密に行う
	④ 学年会議で学年の課題の共有を図り、課題解決に向けた実践・評価・改善ができてきているか。 ＜結果＞ 教員間のコミュニケーションが高まり、チームによる早期対応ができた。報告・連絡・相談を継続していく。	3	新年度も先生方の協働体制をしっかりとつくりたい。その際、教師自らその模範を示してほしい。 ・各種委員会から学年への取組の周知徹底(当事者意識の高揚) ・指導の共通理解の推進(生徒状況の情報交換・対話を密に行う) ・チームでの実践と改善報告・連絡・相談の徹底
	⑤ 研修(校内・校外)で学んだことを、学年会等で還元し、教育活動の向上に役立て実践したか。 ＜結果＞ 嘉麻市の研究発表会を無事開催することができた。3年間の取組を継続・深化していく。	2	時代の変化に対応できる教師として、研修に励みスキルアップを目指してほしい。また、令和5年度の義務教育学校開校に向けた準備もお願いしたい。 ・研修内容の整理と絞り込み(カスタ導入に伴うICTの活用) ・学年会や紙面による研修内容の発信 ・嘉麻市研究発表会に伴う研修の充実(評価・評定)
	総合所見	教育目標の達成に向けた取組は、学年の取組により遂行できている。教員間のコミュニケーションが機能し、生徒の情報共有はできているが、教員の指導力により取組の実行・徹底に差がある。社会の変化に対応した教育課程のマネジメントを行うためにも、短いスパンでの成果や課題を示しながら、必要な研修の充実や教員への個別支援を充実させる必要がある。	
教育活動	① 教科担任として、合理的配慮を踏まえた教材・発問・板書の工夫等、授業づくりや指導技術の向上に努めているか ＜結果＞ 校内での公開授業を実施し、研究報告や教育論文への応募等、資質の向上に努めた。	3	校内研修では、教師お互いの授業を参観し切磋琢磨してほしい。また、他校での実践も参考にしながら、今後も指導技術を磨いてほしい。 ・個に応じた指導(形態、教材の選択、特別支援教育の視点) ・考える力を育成する指導(書く場面、交流場面) ・活用力をつけるための単元計画とその実践
	② 朝の学習活動や家庭学習の課題等、学力向上につながる創意工夫をしているか。 ＜結果＞ 自学ノートの質の向上を継続していく。朝学習では、クラス全員で学習する楽しさも感じさせたい	3	朝学習のMVPの取組は、生徒の励みとなっているようである。3年生が部活動を引退した後の学習支援を積極的にしてほしいだろうか。 ・朝学習の計画的推進(確認テストの活用) ・基礎基本の徹底を図る取組の充実(宿題、個に応じた週末課題の充実) ・自学ノート実施の改善(自分の学習に対するめあて、まとめ)
	③ 人権学習や道徳の時間は、考えさせる場となり、いじめ防止策につながっているか。 ＜結果＞ 道徳科等の充実により、生徒の心の成長を実感できた。	3	いじめに対して早急に対応していることが分かって安心した。生徒一人ひとりの様子を全職員で見守ってほしい。楽しい学校生活が過ごせるような教育を推進してほしい。 ・実態に即した指導計画、教育内容づくり ・小集団活動の充実 ・学校行事とブロック活動との関連を図る ・話し合い活動の充実
	④ 学活や学校行事は生徒の自主性を引き出し、自尊感情を高める取組となっているか。 ＜結果＞ ブロック活動により、自尊感情の高まりや個人、集団の成長を見ることができた。伝統の継承を目指す。	3	コロナ禍の中、体育会、合唱コンクール等行事を工夫していただいていることがありがたい。ブロック活動は、今後も続けてほしい。 ・達成感を持たせる工夫(異学年との交流) ・生徒会による行事の計画と運営(生徒自ら課題を見つける) ・行事後の取組の充実(振り返りと日々の生活につなげる)
	⑤ 保護者や地域と連携した教育活動に取り組んでいるか。 ＜結果＞ コロナ禍の中、PTA活動や学校開放(授業参観)の方法を模索し、可能な限り実施した。	2	PTA、地域との連携をさらに充実してほしい。学校生活の様子を見る機会や知る機会を増やしてほしい。 ・保護者との積極的な連携と参画意識の啓発 ・学校通信などの充実(学校での様子) ・グロスターチャー等の活用
	総合所見	生徒の授業(学習)に対する意識は向上し、毎日の学習を頑張っている。学力を定着させる教師の指導技術が課題である。全校共通で実施する朝学習や自学ノートを中心に、基礎基本の定着を図っていく。また、ブロック活動の取組を更に推進していく。	
生徒の状況	① 生徒たちに、感謝の心を持ち、周りの人を大事にする言葉遣いが身についているか。 ＜結果＞ 人を傷つける言葉等の発言は減少してきた。	3	生徒一人ひとりの話を先生が聞いて、アドバイスをしてほしい。先生と生徒のつながりが生徒と生徒のつながりをつくっていくと思う。 ・自己や他者で評価できる場の設定 ・適切な言葉遣いや認め合う場の工夫 ・教師、生徒の言語環境とその場での指導の徹底
	② 学級集団には、お互いを認め支え合う雰囲気があるか。 ＜結果＞ お互いの良さを認め合える雰囲気ができてきた。話し合い活動による集団作りの充実を目指す。	3	先生方が一枚岩となり、学級がよい方向に進むために導いてほしい。また、コロナ禍で難しいと思うが、教え合い活動を授業の中で活用してほしい。 ・不登校生徒と学級のつながりづくり ・支持的な雰囲気づくりと仲間意識の向上の取組の充実 ・教師間の連携と支え合い(教員間での研修)
	③ 生徒は、基本的な生活習慣(生活リズム、挨拶の習慣、整理整頓、掃除)が身についているか。 ＜結果＞ 生徒を取り巻く生活環境の多様化に、苦慮している。粘り強く保護者と連携していく。	2	SNSやゲームの問題は、届けたい保護者に届かない実態がある。社会的な問題だが、啓発の工夫など根気強く続けてほしい。 ・SNSなど保護者を巻き込んだ取組 ・生徒の個別の実態把握と声かけ(アセスの活用) ・遅刻、欠席解消の取組
	④ 生徒は、積極的に学習活動に参加し、日常的に学習する習慣が身についているか。 ＜結果＞ 平日の自学ノート・週末課題の実施で家庭学習を全くしない生徒はほほえない。小中連携を更に進める。	3	学習したことが役に立っている意識を持たせる取組を工夫してほしい。課題のチェックを細かく行い、指導していることを今後も継続してほしい。 ・中学校での学習の仕方の指導 ・小中連携の取組(学習のルールづくり) ・宿題、自学の統一した取組(量と質を考える)
	⑤ 生徒は、毎日楽しく学校に登校しているか。 ＜結果＞ 学ぶ楽しさを実感できるような授業への転換を推進している。自尊感情を高める取組を継続していく。	3	先生たちの雰囲気が、生徒たちに伝わると思う。先生方のチームワークが、生徒のやる気を引き出し、充実した学校生活につながるかと考える。 ・キャリア教育を意識した指導の充実(個別の支援) ・教育相談の充実(日々の声掛けや観察) ・自尊感情を高める取組の充実
	総合所見	生徒の集団に対する帰属意識が向上する等、生徒の状況は良くなっている。しかし、背景にある厳しい実態は変わらない。教育相談の充実と支持的な雰囲気づくりの深化が必要である。また、保護者や地域と連携した長期的展望に立った取組を構築する必要がある。	